

国・行政主導の市町合併 市民にメリットのない中核市にノーを

全国には例のない豊かな財政力を持つ自治体間で、いま、なぜ合併なのか。市民の疑問に答えようとしない市政 国の押しつけと行政主導の合併に「ノー」の審判を。
知多半島では、住民投票でつきつぎに合併協議が破たんしてしま

市民の声がとどかない合併協議

現市長は、合併の旗振り役です。「住民参加と情報公開」は形だけです。住民意識調査（今年11・12月）も、わずか5%の人にアンケート。

おかしいではありませんか。
正確な情報を提供し、合併の是非は、住民投票で判断します。

行政サービス どうなるか心配

今年7・8月、新都市ビジョン案をテーマにタウンミーティング。この中身は、現実からはなれて「夢を描くもの」という。市民生活や行政サービスは118項目に、そのほとんどは、「合併後に再編する」と。これでは、市民には分かりません。

投資余力はゴマカシの試算

合併した場合、投資余力は10年間で357億円というが、過大な見積もりです。中核市になって、県から移譲する事務事業費（岡崎市の場合、20億円の負担増）が見込まれず、ゴマカシの数値です。しかも、土地開発公社が抱える隠れ借金は除かれています。

新たに事業所税43億円（3市1町）の増税 活性化に逆行！

5年間は徴収猶予。その後、東海市では毎年21・9億円の増税が企業に課せられます。早くも、「そんなバカな」という声が寄せられています。



ひらた 哲彦さんは 任意合併協議会を解散し 自立し輝くまちづくりをすすめます

介護保険料・利用料の軽減
軽減措置の効果ある実効策にします。

高齢者が集える場所（宅老所）
を数多く

高齢者が、地域で元気に交流できる場所として、宅老所の設置・運営が全国で広がっています。

障害者が安心して暮らせるまち

障害者のデイサービス等の利用に、1割負担を導入。医療・デイサービス、ホームヘルプサービス等への助成をすすめます。

「ららん」バスをもっと便利に

「ららん」バスは、多くの市民から喜ばれています。市民の足の確保のためルート、ダイヤ等を含め、充実させます。

保健師を増員し母子保健を充実

東海市では、保健師が減っています。母子保健の充実のため、保健師を増員します。

降下ばいじんの対策を強化し、
ふるさとの自然を守ります

現市政は、ばいじん発生の原因をあいまいにしています。企業の社会的責任を明確にし、対策の強化を求めます。開発を抑制し、里山などの自然を守ります。

教育予算を元の水準に戻し、
少人数学級を拡充します

予算を元の水準に戻し、中学生1年生も少人数学級を実施します。普通教室に冷暖房設備を整えます。

耐震対策の強化、
公共施設の耐震化を促進

公共施設の耐震調査では、「危険」が20%。耐震化計画を前倒しし、特に、避難所の施設は早急に。木造住宅の改修には、上限枠（現行60万円）の拡大をめざします。